

## 別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) ナカウン株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒703-8264 岡山市中区倉富340-18	
本票作成	部署名：ナカウン(株) 本社 総務部				
主たる業種	分類コード	44	業種名：道路貨物運送業		
事業の概要	岡山県を拠点とし、本社事業所の他、総社、高梁、津山と事業所があり、クレーンリース、運輸、建機リース、引越しサービス、観光バス、イベントと事業展開を行い、クレーン・貨物自動車・貸切バスの保有車両400台程、従業員260人程である。				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	本社事業所		岡山市中区倉富340-18	
	②	津山営業所		津山市河面1198番地の1	
	③	高梁営業所		高梁市津川町今津863-1	
	④	総社営業所		岡山市北区高松田中209-1	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input checked="" type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 4 所 ●車両台数 (②該当の場合) 400 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 21 年度)	(平成 26 )年度排出量	目標年度(平成 26 年度)
	6,006 t CO <sub>2</sub>	5,944 t CO <sub>2</sub>	5,706 t CO <sub>2</sub>
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 26 )年度排出量
	①	本社事業所	5,464 t CO <sub>2</sub>
	②	津山営業所	241 t CO <sub>2</sub>
	③	高梁営業所	124 t CO <sub>2</sub>
	④	総社営業所	292 t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況	計画期間：平成 22 年度 ～ 平成 26 年度 ( 5 箇年度)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 総排出量基準	( 26 )年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input type="checkbox"/> 原単位基準	1.0 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容	原単位当たり排出量		
		基準年度	( 26 )年度	目標年度
		CO <sub>2</sub> /( )	CO <sub>2</sub> /( )	CO <sub>2</sub> /( )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 26 年度)	達成率等

## 【削減状況の自己評価】

今回の報告年度は平成26年度になり、目標年度でもあったが、最終目標数値を達成できていない。個々の事業所の数値を検討すると、車両台数が多い「本社事業所」の排出数値が高いと思われる。特殊車両のクレーンの稼働率が上昇したことにより、排出量も増えたのではないだろうか。貨物自動車・旅客自動車に関しては、全車デジタル式タコグラフの導入により、低燃費走行を実施したことにより、比較的排出量も抑えられたと思われる。電気使用量に関しては、「本社事業所」の事務所内の蛍光灯をLEDに交換した効果も表れていると思われる。

**【推進体制】**

- 前年度と同様に、社内にエコドライブに係る管理責任部署（安全管理部）を設置し、エコドライブ運転の励行を継続的に実施した。
- 電気使用量に関して平成26年度は、「本社事業所（その他関連事業所）」の事務所内の蛍光灯をLEDに交換し、消費電力を抑える設備投資を実施した。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
（平成26年度実施分） 全事業所 本社・総社・高梁・津山	（平成26年度実施分）平成25年度実施と同様、以下の項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>●空調設備の使用を必要最低限に抑え、節電の徹底。</li> <li>●貨物自動車・旅客自動車の全車に対して、デジタル式タコグラフ、ドライブレコーダーを取付け、それらの機器による評価をもとに運行時教育の指導を図る。速度超過回数、アイドリング時間等の分析に努め、省燃費運転の指導実施。</li> <li>●貨物自動車・旅客自動車にドライブレコーダー機器を取付け、走行中の安全意識と燃費効率の意識向上を図った。</li> <li>●貨物自動車の乗務員に対して、蓄熱式ウォームマットを配布し、寒冷気候による長時間のアイドリングストップ対策。</li> <li>●クレーン車の乗務員に関しては、各班で作業効率と低燃費の検討会を実施。</li> <li>●クレーン車・貨物自動車を低燃費車両への更新。</li> </ul> （今後実施予定分） <ul style="list-style-type: none"> <li>●各車両の配車担当者にも協力を仰ぎ、車両経路の選定（効率的な通行経路の選定）により一層努める。</li> <li>●各乗務員に対しては、引き続き省燃費運転の方法を指導するとともに、若手育成を含めて、運転指導を実施していく。</li> </ul>

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

--